

7	A New Pocket Dictionary of the English and Dutch Languages (第2版)		
	AN-173	1857	H.Picard編
ポケット版英蘭辞典。日本最初の本格的英和辞典『英和对訳袖珍辞書』の原本になった。			

- ◆ 全483ページ。英語の見出しにイタリックでオランダ語の説明が付けられている。サイズは15×12cmで、タイトル通りのポケット版である。第2版が『英和对訳袖珍辞書』の原本とされた。
- ◆ 当館所蔵本は、1857年刊行の第2版（初版は1843年）である。「洋書調所」「神奈川会所改」「静岡学校」の印記をもつ。
  - \* マイクロフィルム、複製本あり。

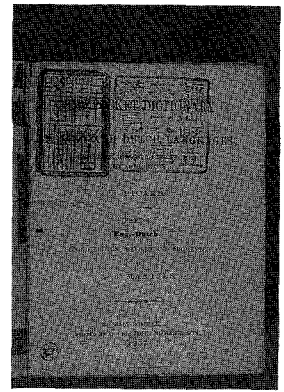
8	英和对訳袖珍辞書（複製本）		
	830.3-110		堀達之助編
洋書調所から発行された日本最初の印刷本による英和辞典。後の英和辞典に大きな影響を及ぼした。			

- ◆ 嘉永6年(1853)のペリー来航、安政5年(1858)の日米修好通商条約の締結と、対外環境の変化に伴い、我が国の外国語研究は、オランダ語から英語へと、その流れを急速に変えていった。このような情勢の中、文久2年(1862)、わが国最初の印刷本による英和辞典『英和对訳袖珍辞書』が出版された。編集の中心を担ったのは、蕃書調所教授の堀達之助(1823-1892)である。

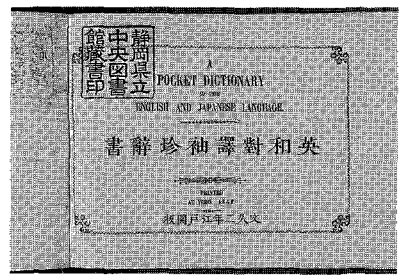
本書の原本とされたのは、ピカルト (H.Picard) の“A New Pocket Dictionary of the English and Dutch Languages” (第2版 1857) である。英語-オランダ語のうち、対訳のオランダ語の部分を、主として『和蘭字彙』の訳語によって翻訳した。ちなみに「袖珍」はpocketの訳語である。収録語数は約3万7千語。アルファベットの部分はオランダからきた鉛活字で、訳語の部分は木版で印刷された。印刷部数は200部であったという。蕃書調所が洋書調所、開成所と改称されたので、この辞書も一般には「開成所辞書」と呼ばれた。また、慶応3年(1867)以降の版は、その形が少し大きくなり、昔の木枕に似ていることから「枕辞書」とも呼ばれた。

本書は、活字本として最初に刊行された英和辞典である。また、蘭学研究成果を英学へ継承した業績として洋学史上大きな意義がある。さらに、本書を原本とした改訂増補版が明治20年頃まで相次いで出版され、後の英和辞典の源流として長くかつ大きな影響を及ぼし続けた点も見逃せない。

- ◆ 当館所蔵本は、文久2年(1862)の初版の複製本。
  - <参考文献> 『蘭和・英和辞書発達史』(830.1-102)
  - 『大阪女子大学蔵 日本英学資料解題』(830-37)



7 新ポケット英蘭辞典（ピカルト編）



8 英和对訳袖珍辞書（複製本）